



皆化  
節用

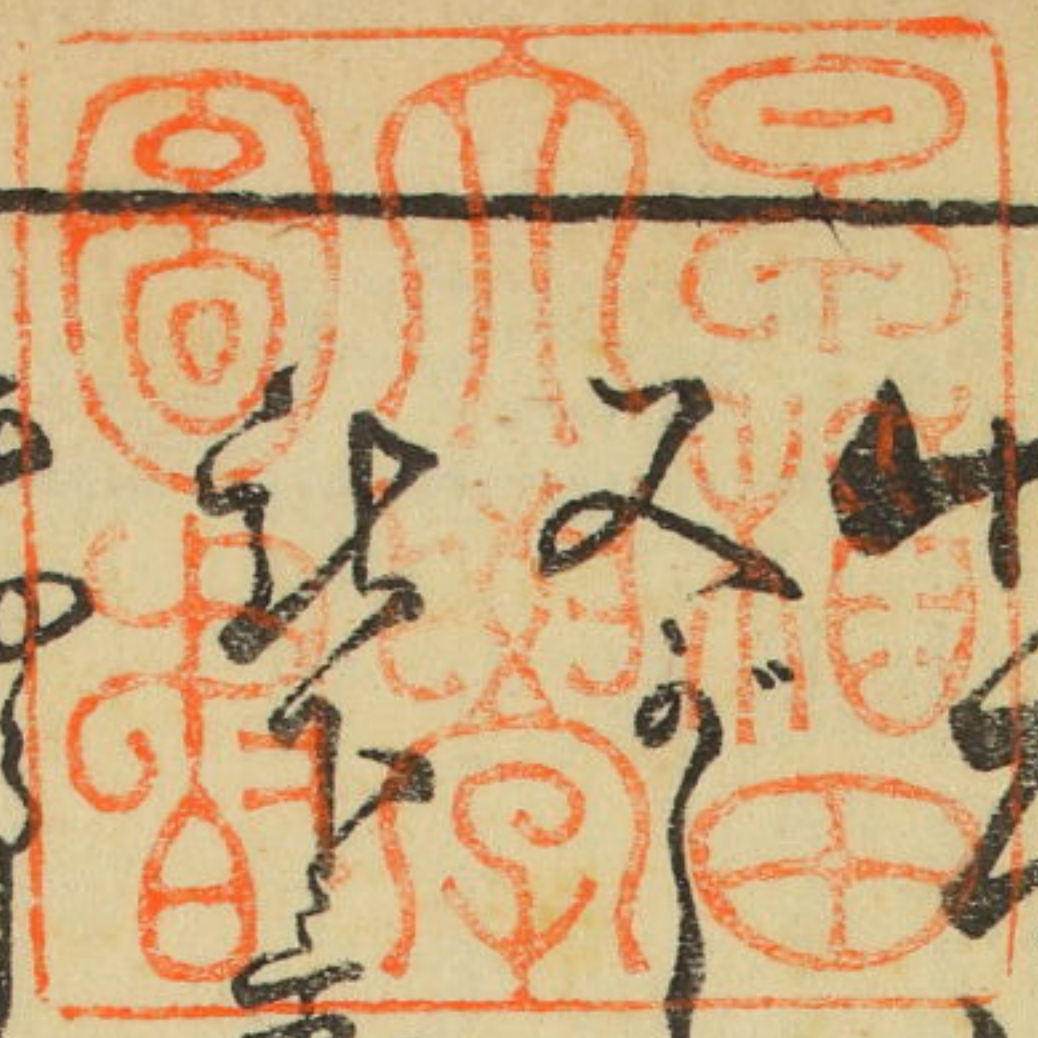
小野篁  
字淡也

全

^ 13  
870



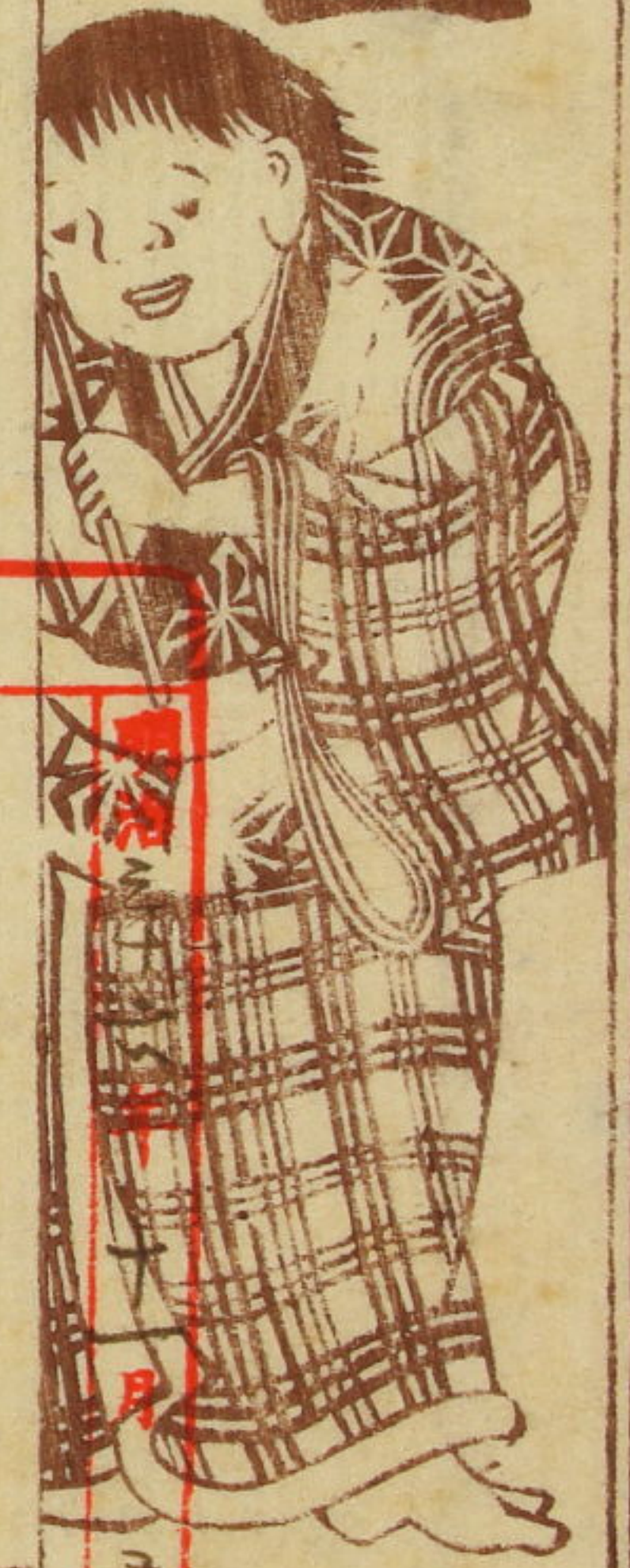
門 遠  
 號 870  
 卷



世本行方様は用にお歳も  
 又がの先も...  
 世本行方様は用にお歳も  
 又がの先も...  
 世本行方様は用にお歳も  
 又がの先も...



初代式亭三馬著述  
 皆化 節用 儒者の肝法



五方  
 命薬  
 おのろ



坪内雄蔵  
 氏安編

月 五日

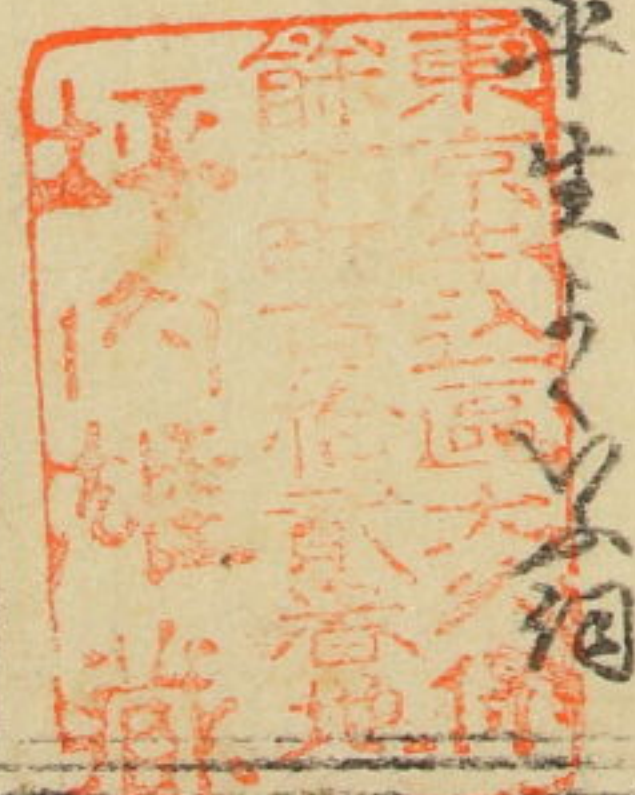
皆化 節用 儒者の肝つゝ

總目

- 客人乃官跡乃祭乃圖
- 通祿の縁起并糸の行廻
- むか算用早割乃法
- 利劫乃度
- 銀つゝい早割
- けん多乃乃割
- 額くんのんの書法
- 色紙短冊扇邊紙
- 繪馬并懸乃見立
- 一年中通用文章
- 諸家紋帳
- 篆書似と字并
- 學後ぶあな事形
- 扱素さう方并造物器

- 一 小野篁の小傳英圖
- 一 色角述ふはの來由
- 一 新制衣のろは文字
- 一 篇冠拵字并
- 一 五姓名頭字并
- 一 異於英名つゝ
- 一 妾女うかけつゝ
- 一 手の筋早見
- 一 人相小くみ英圖倫
- 一 面部圖英注 解
- 一 諸流小くみ
- 一 頭書周縁
- 一 加まど洞大概
- 一 五性判
- 一 難字つゝ
- 一 まくつゝ
- 一 痕紋圖倫
- 一 人相圖倫
- 一 能の面圖
- 一 月乃異名
- 一 平生方

大尾

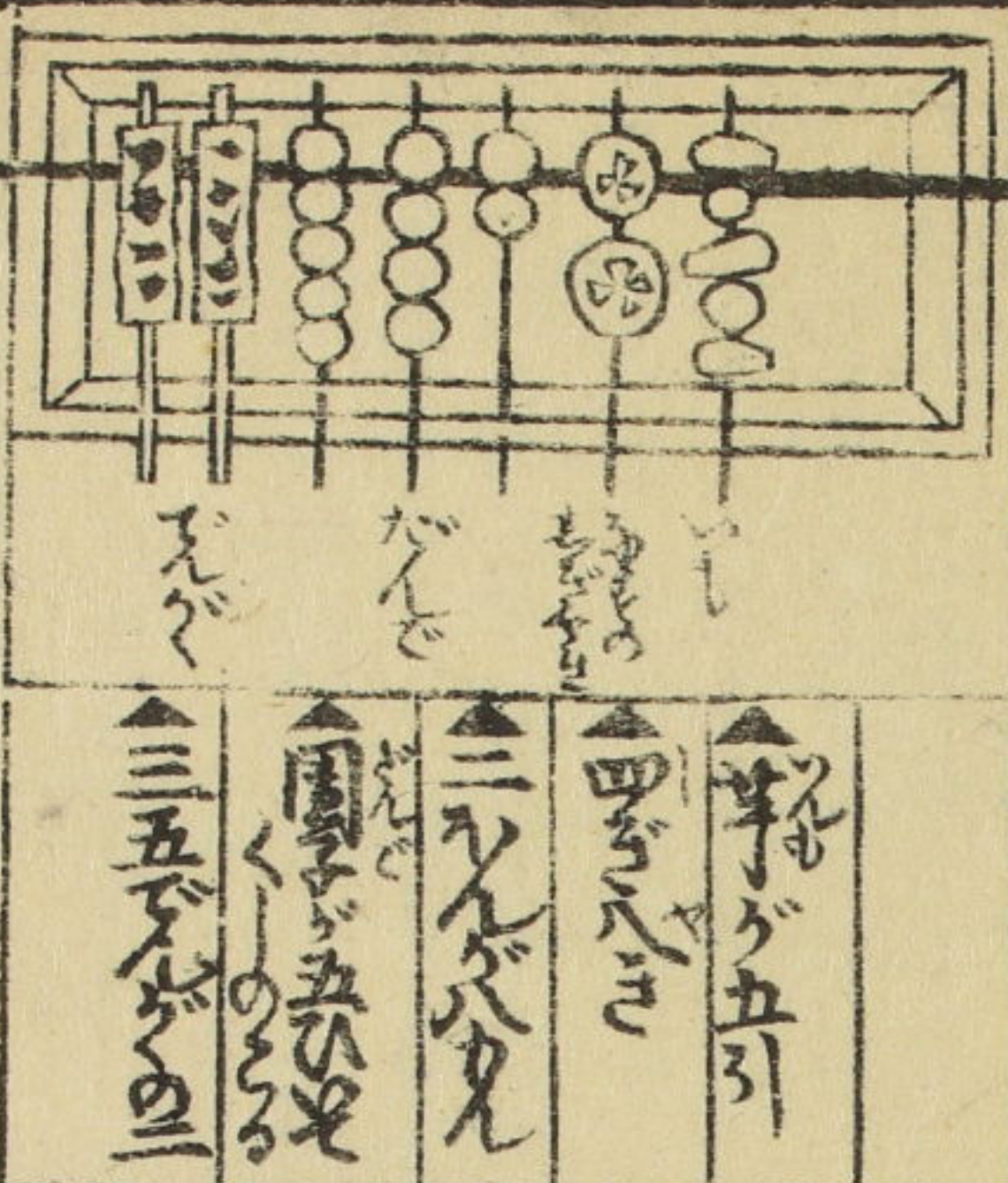






○月小村雲のごい一本 羽のこけり  
 ○羽のこけり 二つを一つにまとむる  
 「附」あるの中のみごとく  
 ○物ましのし縁 ところよりいひ急の巻  
 ○のり ちとごい一本のりをもつて  
 ○鯉節のごい 一本のりをもつて  
 ○つまみ 一本のりをもつて  
 ○後物のごい 一本のりをもつて  
 ○其外の番組 ばねるるもれども

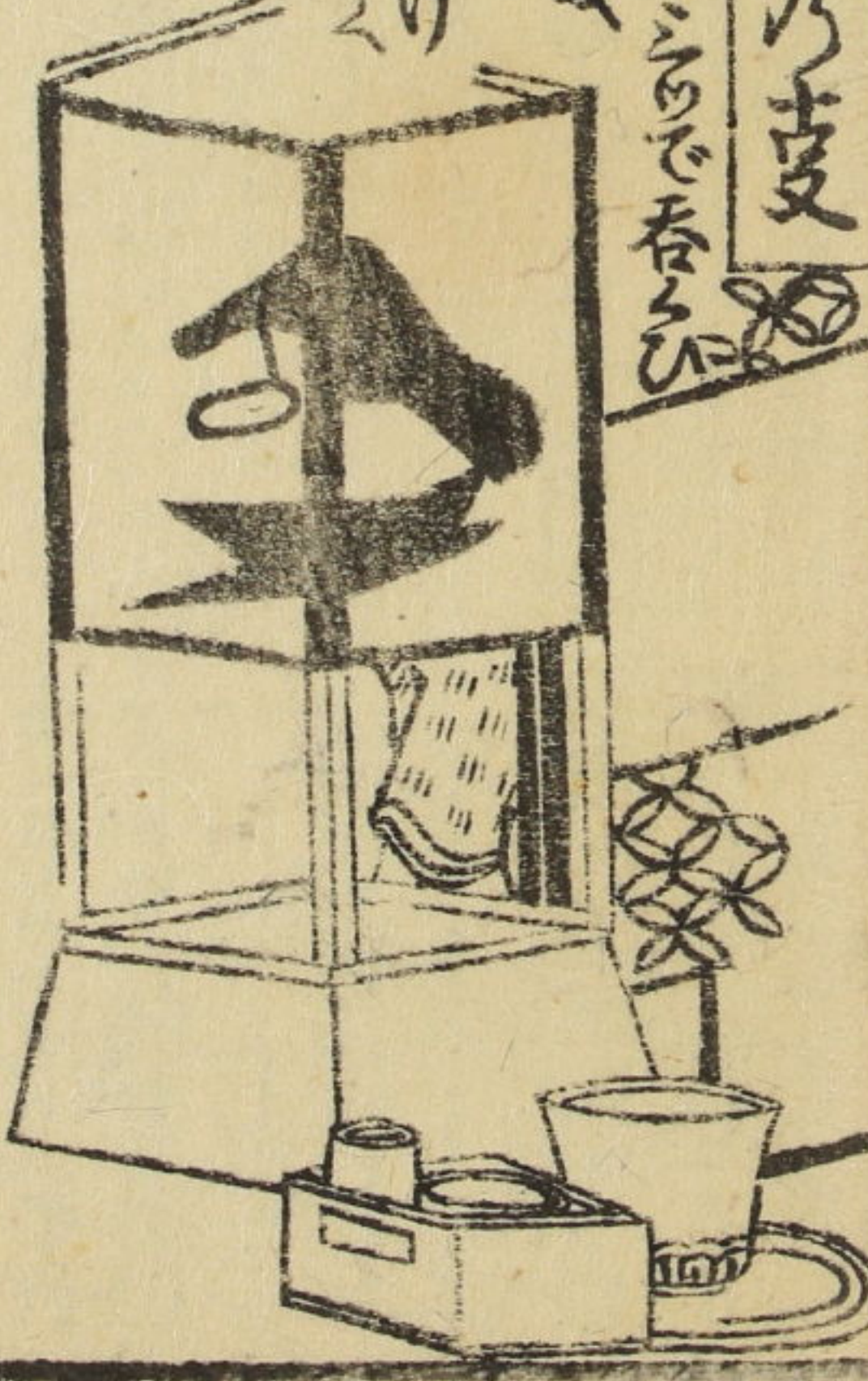
### 脚算用早割乃法



ちとごい だんごい  
 本のどろり  
 月直バ  
 おつを  
 ますろ  
 のふ

かゝるごい  
 くの侍  
 後  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五

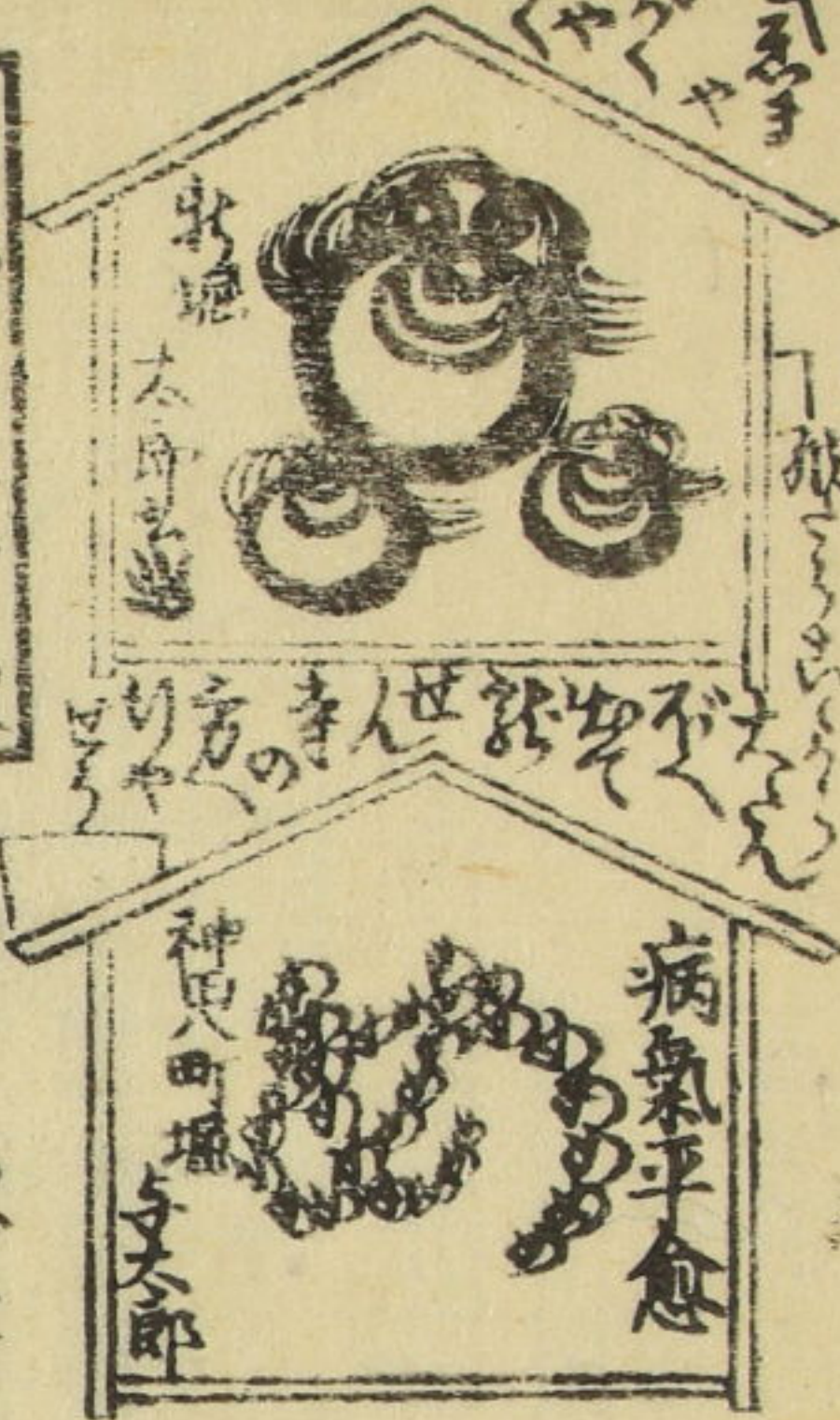
### 利かゝる乃法



法  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五



○看版類乃文字書法



Right side of the top advertisement containing several columns of handwritten text and a small illustration of a person.

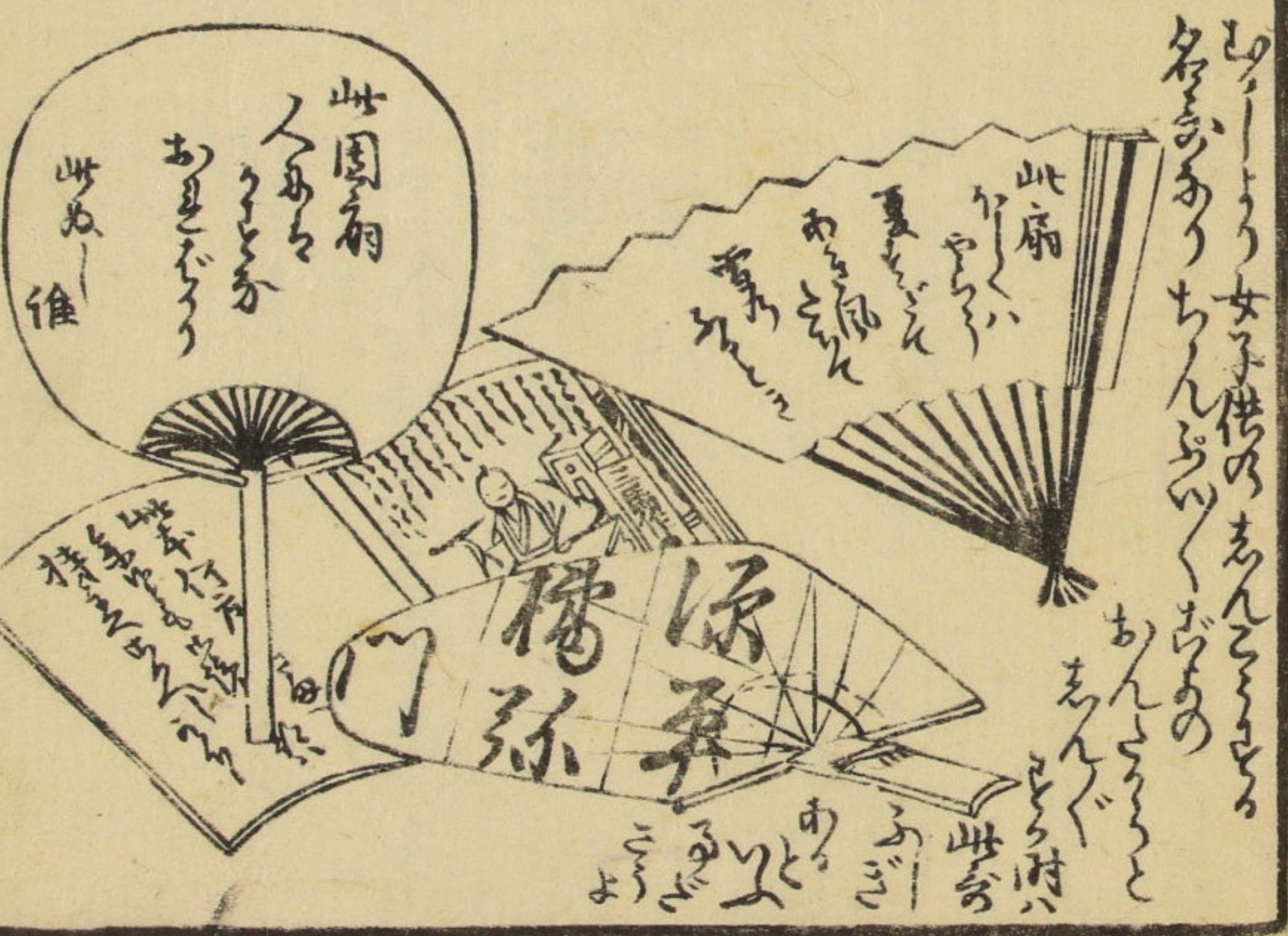


表 表 開の犬所小便無用  
裏 裏 犬の所小便無用

Text block for '吉野丸' (Yoshino Maru) medicine, including '吉野丸' and '吉野丸' written in various styles.

Text block for '吉野丸' (Yoshino Maru) medicine, featuring large calligraphic characters.

Text block for '蒲野文法書' (Yoshiura Monsho), featuring large vertical characters.



Text block on the right side of the bottom advertisement, containing several columns of handwritten text.

Text block for '色紙短冊扇徳帳' (Ishiji Tansho Senshu Tokuchou), containing several columns of handwritten text.

Text block listing names and titles: 白山之 雷乃 鳥影, 峰流 影, 靜仁 出鼻, 任流 良比天.



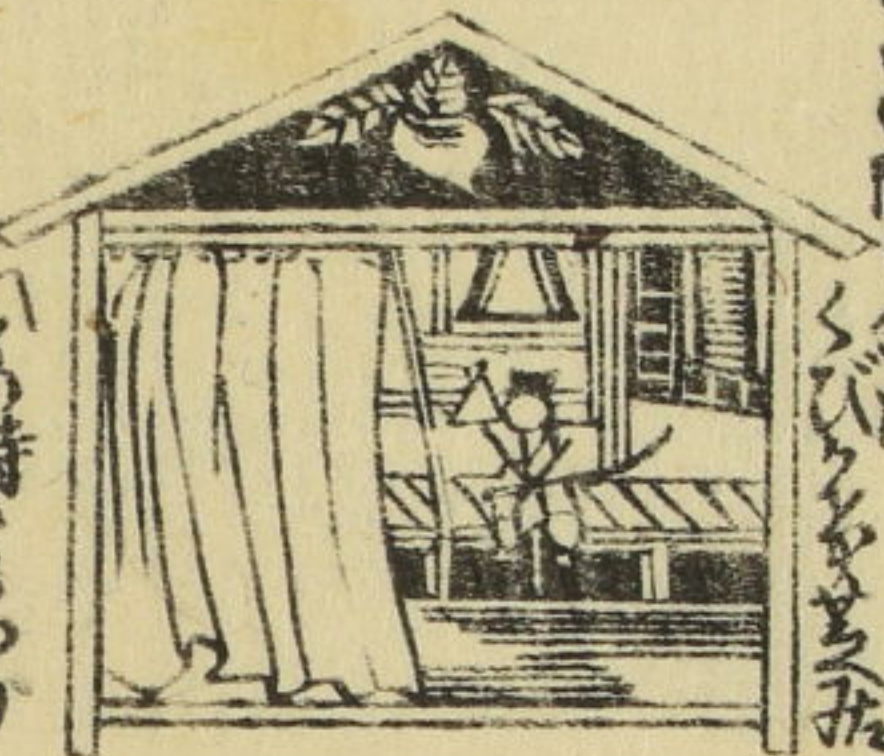
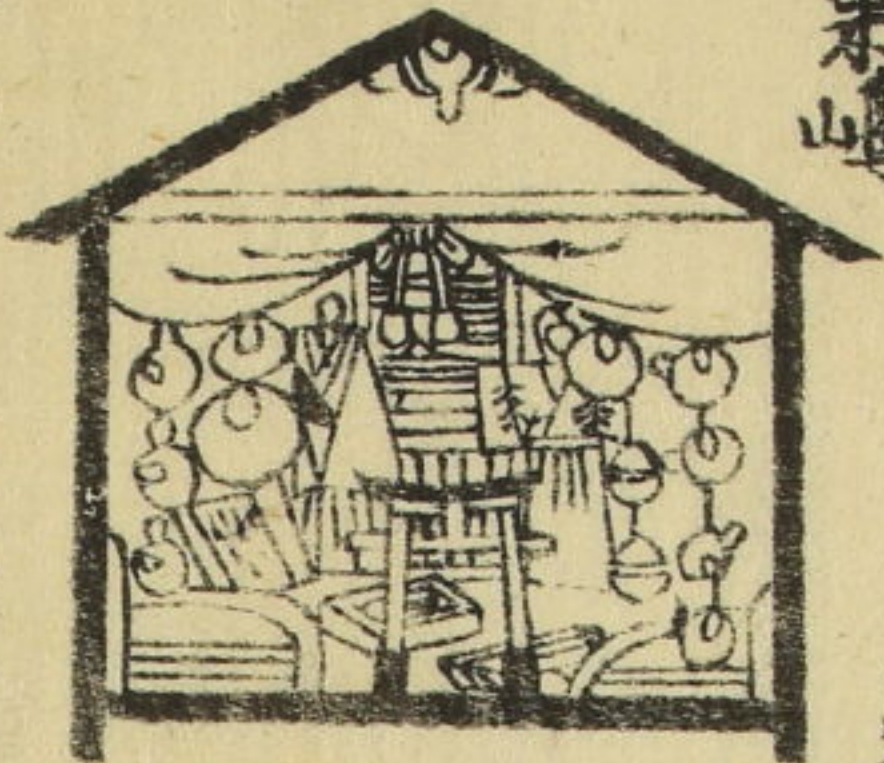
繪馬系 聯の見立

は持束物は身物り利の

形物ふ仕失物なる下

火用心

ろく四履



粟嶋

くしらの野の余風

くしらの野の余風

この時よりお  
大おんあけり  
エツとく  
この時よりお  
大おんあけり  
エツとく

○年中通用文章

春始之去駒杯も後見ても  
能くやの別ら徳着の義載る  
家内は敏高加格中より義  
御同安手納の行も為の  
流半切の五枚布の文元結水引五筋  
高年中の重宝墨摺之大小一枚  
名れへがしいは不細工の  
遊小からく扇箱手信と賜  
遊小からく扇箱手信と賜

しづく紋


オニシツのひちとやあてりてん女  
オニシツのひちとやあてりてん女  
オニシツのひちとやあてりてん女  
オニシツのひちとやあてりてん女

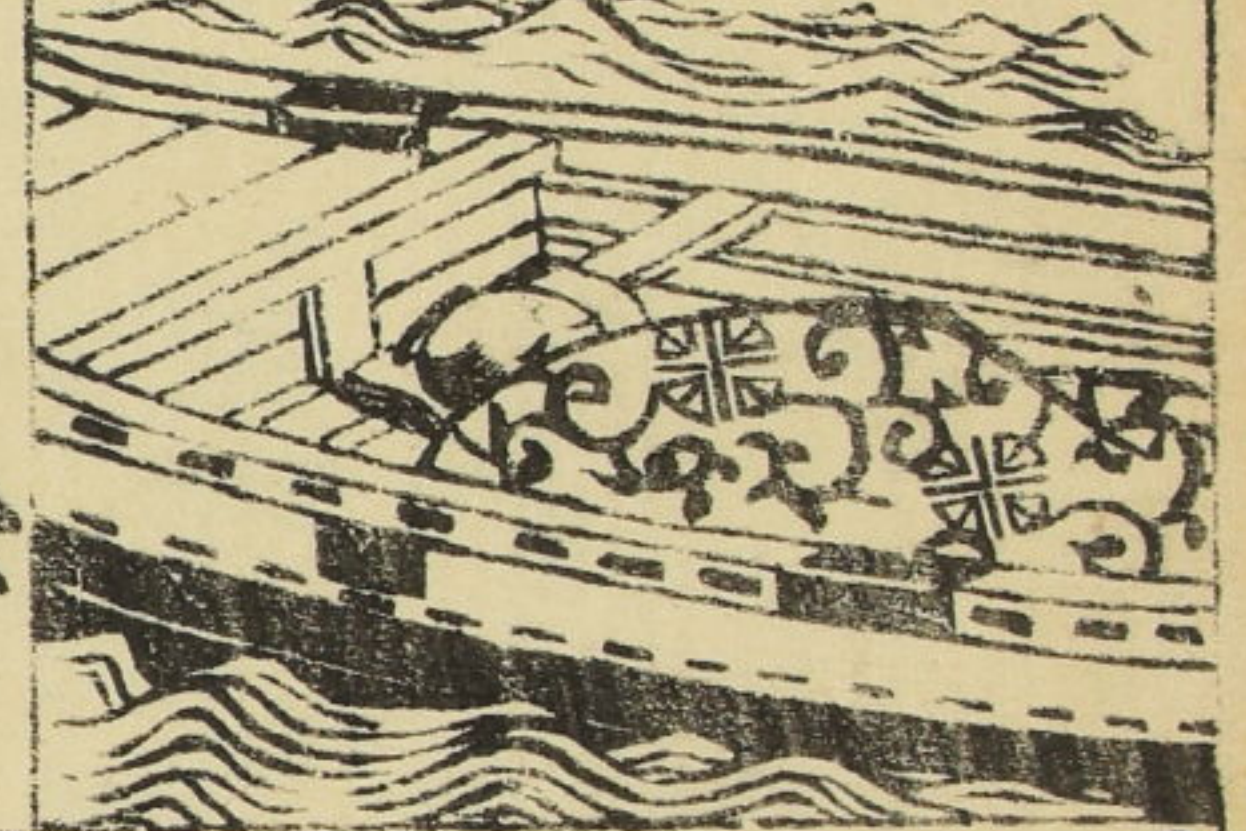
縮む切舟中と新田格の夫と婿  
少七種せぬ義、来去之由給と存付  
之は公も早くと、亦身な次也怪  
之は公も早くと、亦身な次也怪  
之は公も早くと、亦身な次也怪  
之は公も早くと、亦身な次也怪

若松万載門様  
二河原  
文彦  
その他の文章 界之



無禮不躰方

○指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



○よんそこのりやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



○玉皿のりやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



○おひさのりやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



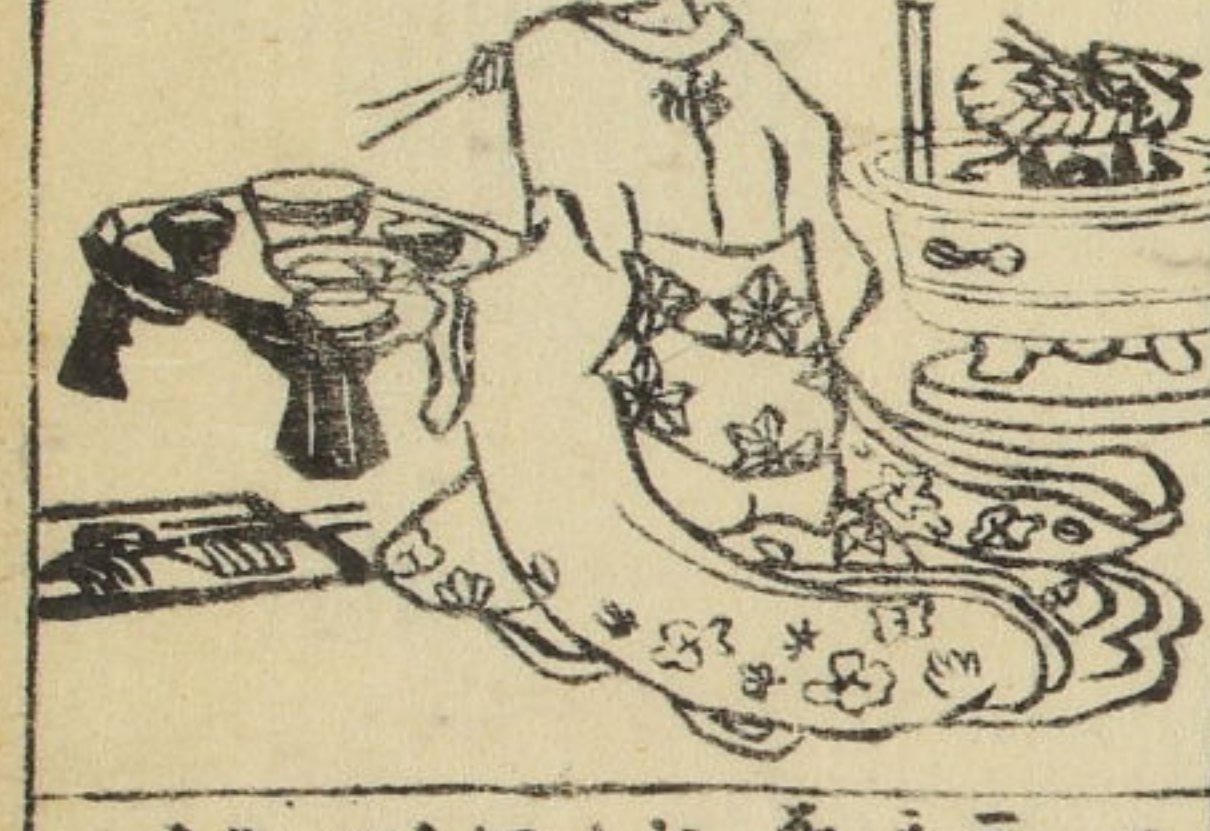
○有るにやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



○障子のりやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



○飯食のりやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人



○餅食のりやう  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人  
 指すのりやうに人  
 左を向ひ合ふに人  
 右を向ひ合ふに人





文字ハ陸陽公生じて万象とわらんと人同用の意趣あり小野篁欣字を流人の  
 俗作あるをむと頼向と面白きと曰已巳巴樂樂樂のたは後後とてかた  
 却て童童花れ為小毒瓜あも今君と謔字をいかにんふらうれ文字と輯め  
 され毒中と毒中もあもと笑と用中と比高とあもるは唯子瓜ある  
 多羅芥が志ふは瓜和げ嫉つら猫も染が願以解とふんまう坊若  
 中と食淡一笑と二百換とて華とてわあのとて孫とて丸  
 一物とて而也

小野篁も虚八百余代  
 狂く天皇乃御宇  
 小野伴成とて狂か  
 所乃中とある名はあ  
 人わらし武州竹林の  
 篁如似  
 蕙といふ文字  
 毛とてまの



下小人の童まき布ら  
 凡多ぬ着くおひの介  
 尻放るまむんく上り  
 ちれバびんあぬわす  
 ねとんあま子あんと  
 家小あひらかえ来蔡  
 中あくる尻放し中  
 汝治郎とてあまあり  
 虚字をらと黒字印  
 つれめて彼古借ふら  
 うまらと泳泳とさぶの中  
 で尻を撒とて此愛あり  
 後まてくくくくく  
 妙とて小野篁とてあ  
 此虚字を流製作のしとて





いろは新字

四十七字とかりくの五十とあがりつゝゝの湯春山登  
あまやまとだるおも。君まらうと想ふと成る。ひらまひ

諸方無性

いろとさけにわ。みなまよひやす。  
色酒皆迷安

註曰 いろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの

身性滅法

ちりちりていめ。かぬのほしきは。  
散動夢金欲

註曰 色を滅するは  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの

惣別不粹

たれもふにる。づ。つらぬ。  
誰充滿辛氣

註曰 色を滅するは  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの

不食負樂

木へぬをわきてせむ。  
寂滅取而爲

註曰 色を滅するは  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの  
あまやまのいろは新字とあまやまの

かまご洞大観

禪字表

戲作者

式亭三馬戲著  
門人 樂亭馬笑校

偈 復 伏 終 儂

鏗 鏗 鏗 鏗

天 地 報 古 魂 子 冊 冊  
かまご洞大観  
かまご洞大観  
かまご洞大観  
かまご洞大観  
かまご洞大観  
かまご洞大観  
かまご洞大観  
かまご洞大観

金 波 娘  
金 波 娘  
金 波 娘  
金 波 娘  
金 波 娘  
金 波 娘  
金 波 娘  
金 波 娘

あしふし ありけり ぶんぢん たいのん 火吹峠と べいせい 重庭五重 ぶんじん 濁りふふん ぶんせつ 香踏とせむと さいせんと せいじん 列とらんべ 十死一生とあひむき

あしふし ありけり ぶんぢん たいのん 火吹峠と べいせい 重庭五重 ぶんじん 濁りふふん ぶんせつ 香踏とせむと さいせんと せいじん 列とらんべ 十死一生とあひむき

**鈇** つるぎん 鈇あや **銚** つるぎん 銚あや **鉄** てつ 鉄あや **鑄** あら 鑄あや

**鑿** さく 鑿あや **鑿** さく 鑿あや **貸** かい 貸あや

**借** かり 借あや **返** かへ 返あや **越** こえ 越あや

**禱** いね 禱あや **徳** とく 徳あや **鉄** てつ 鉄あや **塚** つか 塚あや

**檀** たん 檀あや **酒** さけ 酒あや **罵** ののしり 罵あや

**徒** とろ 徒あや **遠** とほ 遠あや

**還** へん 還あや **起** おこ 起あや

**起** おこ 起あや **起** おこ 起あや **起** おこ 起あや **起** おこ 起あや



乙の甲... 横の... あり... 日... 芝... 茶... 檜... 目... 牙...

無性印判盡  
 三文判  
 目薬  
 文銭  
 香爐灰  
 銅羅  
 天...  
 箱火針  
 炭の消...  
 火性吉

同 園 園 園  
裸頭

奔 奔 奔 奔  
大門

肉 肉 肉 肉  
大門

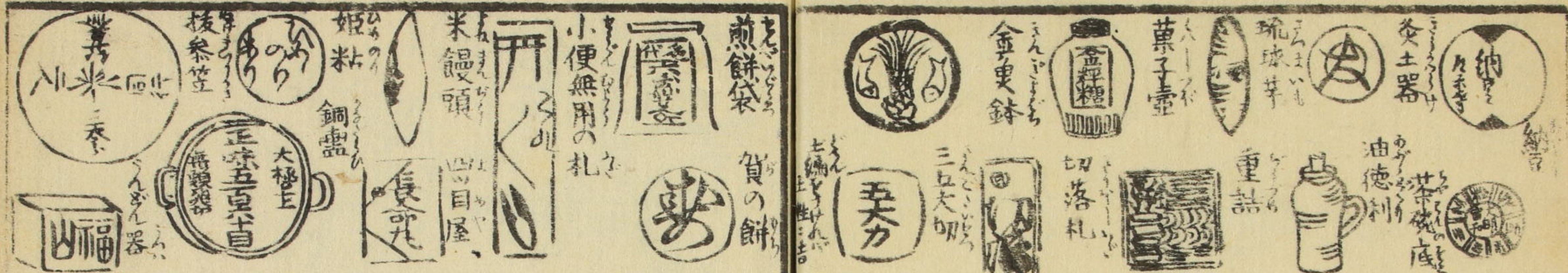
規 規 規 規  
批

甥 甥 甥 甥  
お

甥 甥 甥 甥  
お

叢 叢 叢 叢  
油

早 早 早 早  
早



暁 暁  
 九十月が太夫格子の六十目。片目ぐんちを三目ぐんちの  
 暁 暁  
 暁 暁  
 暁 暁

舞 舞  
 五歩ぐんちのひびきのあせま八歩あせま三歩あせまのほけ  
 舞 舞  
 舞 舞  
 舞 舞

目 目  
 こいひの目ひびきやうき水ひびき水吉ひびきあせまのほけ  
 目 目  
 目 目  
 目 目

焔 焔  
 焔 焔  
 焔 焔  
 焔 焔

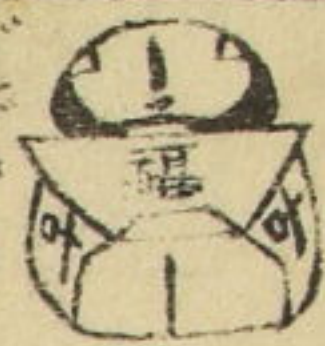
躰 躰  
 片ちんを車ひびきよりよきあせまのほけひびきあせまのほけ  
 躰 躰  
 躰 躰  
 躰 躰

響 響  
 口ひびきのたいとあせまのほけひびきあせまのほけ  
 響 響  
 響 響  
 響 響

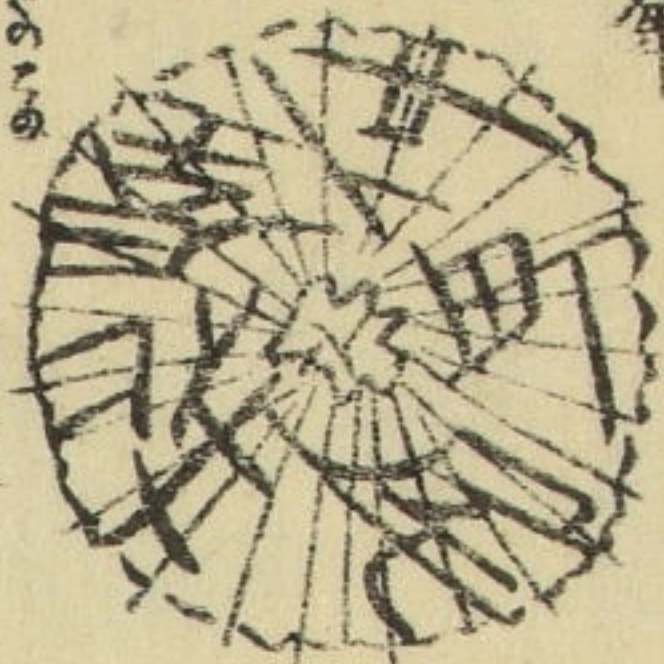
人 人  
 ひとひとあせまのほけひびきあせまのほけ  
 人 人  
 人 人  
 人 人

余 余  
 余 余  
 余 余  
 余 余

叶福助 因果車



番傘



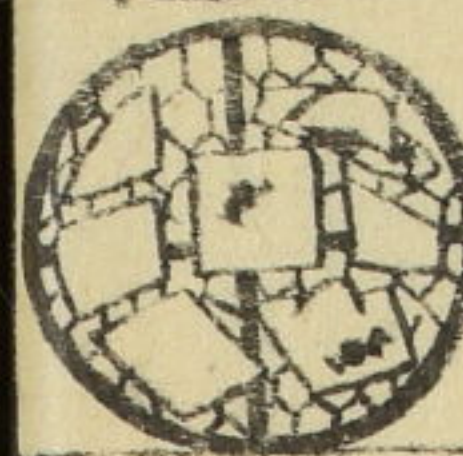
象棋子

茶碗



芝居幕

銅網餅



菓子盒 母煮漆



硯蓋



路次口

大門口



笈摺

火縄



山城屋

足袋着板



〇く相性母を  
ついでに  
とくをそれだ  
や判るを  
孫をこころ  
くあんが  
だまてあ

碎

石

石

酔

鯛

鵠

鴉

五方

富本

花屋門

見返

葉森

一里塚

姥森

猪

鹿

和中散

雁

雁

麗

塙

柵

籬

七舟  
木舟  
竹舟  
千代

其の外天狗猪籠  
 其の洞中をたぐり  
 芝居を弄る勘合  
 の字小の字を  
 判する刀法官簿小  
 ぞまも人の名乃  
 ぞまも東押どん  
 女おごもあごまかん  
 や。古家家の今よはの  
 おやらも新家うら  
 まし。双六裏の里  
 大塚小塚大あり  
 小あり。皆家ぐに  
 平判と判るはひし

平の祖押るをも  
 桐石の平ぬ祖所  
 別せし。美平の  
 わらから平祖の字  
 と極のりちあり  
 吾朝あて八家字天  
 五より始るもいひ又  
 平新家押るも  
 其倫判肉の付  
 とも似て更小平  
 名づく家く家判  
 子ハあごの平れ  
 門小の洞中を

三  
**靴**

申  
 申

**有藤**

**有藤**

**神**

**神**

**神**

**舌切**

**向杵**

**大神**

**墨**

**墨**

**墨**

**魁**

**魁**

**魁**

**女**

**金**

**谷**

**本**

**火**

**出**

**金**

**水**

申蟹かからせん亀ハ...  
 和菘肉とむくも虎もん狩人し庄屋あふまらねけん  
 舌切とむくも助太夫か...  
 一口ハあごらちちよ鬼の...  
 本丸うらふたの山の...

んを法を徳を徳  
十二刀法  
あまのし

無性印判盡尾

五性  
書判

木性吉  
水性吉

血  
酒  
肉  
田  
石  
玉  
火  
金

二八  
二五  
二五  
二五  
二五

十三  
十六  
十六  
十六

十五  
十五  
二十  
四十

田  
田  
田  
田

權  
權  
權  
權

寧  
寧  
寧  
寧

宵  
宵  
宵  
宵

寧  
寧  
寧  
寧

難字和解

和 と 七 いさか  
戸棚 七  
大和の和七夕の七

尻 へ 尻 へ 對 たい 小 せう  
尻 へ 對 たい 小 せう

有 あ 日 ひ 目 め  
有 あ 日 ひ 目 め

情 じやう 分 ぶん 半 はん 分 ぶん で 情 じやう  
情 じやう 分 ぶん 半 はん 分 ぶん で 情 じやう

何 なに 日 ひ 目 め の 日 ひ 目 め  
何 なに 日 ひ 目 め の 日 ひ 目 め

寸 すん 宮 みやう  
寸 すん 宮 みやう

寸 すん の 寸 すん 音 おん 宮 みやう の 宮 みやう  
寸 すん の 寸 すん 音 おん 宮 みやう の 宮 みやう

十 じゆ 六 ろく 鼻 び  
十 じゆ 六 ろく 鼻 び

十六 じゆろく 夜 よ の 十 じゆ 六 ろく  
十六 じゆろく 夜 よ の 十 じゆ 六 ろく

耳 みみ 物 もの を 耳 みみ   
耳 みみ 物 もの を 耳 みみ

麗 れい  
麗 れい

麗 れい  
麗 れい

麗 れい  
麗 れい

懷 わい  
懷 わい

懷 わい  
懷 わい

懷 わい  
懷 わい

鱒 そ  
鱒 そ

鱒 そ  
鱒 そ

鱒 そ  
鱒 そ

巴 ぱ  
巴 ぱ

巴 ぱ  
巴 ぱ

巴 ぱ  
巴 ぱ

燧 たい  
燧 たい

燧 たい  
燧 たい

燧 たい  
燧 たい

秀 しゆ 御 ご  
秀 しゆ 御 ご

梶 かぢ 束 たば  
梶 かぢ 束 たば

頼 らい 光 くわう  
頼 らい 光 くわう

公 こう 馬 ば  
公 こう 馬 ば

馬 ば 羈 かゐ  
馬 ば 羈 かゐ

禪 ぜん 字 じ 盡 じん 終 しゆう  
禪 ぜん 字 じ 盡 じん 終 しゆう

十六夜 じゆろくよ の 十 じゆ 六 ろく 鼻 び   
十六夜 じゆろくよ の 十 じゆ 六 ろく 鼻 び

耳 みみ 物 もの を 耳 みみ   
耳 みみ 物 もの を 耳 みみ

草 藨  
あし  
あが

草 藨  
あし  
あが

鼓 鼓  
たつ  
少つ

白  
九十九

代 業  
やま  
さか

月 代  
あし  
あが

月  
あし  
あが

五 十 夕  
あし  
あが

編冠構字尽  
繪鈔  
あし  
あが

傍本字と附し古文字ハ篆字ト果小  
字ハ異同改正しち中ハ指の心地を小使

の  
あし  
あが

富  
あし  
あが

一  
あし  
あが

巾  
あし  
あが

ツ  
あし  
あが

人  
あし  
あが

し  
あし  
あが

一  
あし  
あが

わ  
あし  
あが

上  
あし  
あが

月  
あし  
あが

一  
あし  
あが

日武  
武士 晦日

大生  
大和乃大生

生士  
大和乃大生

酒造  
臣君

作  
子子 根  
狐 若  
夏もあられ  
わきま 畧之

おんごんごん  
おんごんごん  
字と非と

口  
口



晶  
晶



おののあざ  
ここのあざ  
ここのあざ

山  
山

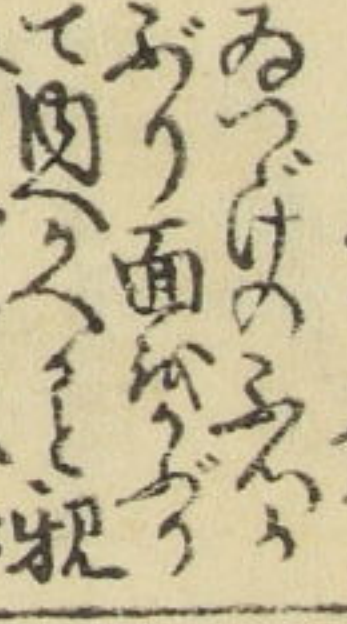


つ  
つ



ひのあざ  
あざのあざ  
あざのあざ

耳  
耳



了  
了



あざのあざ  
あざのあざ  
あざのあざ

白  
白



町  
町



あざのあざ  
あざのあざ  
あざのあざ

名頭字畫

名頭字畫

木性  
木性

杏  
杏

戸  
戸

勇  
勇

治  
治

和  
和

木  
木

編  
編

仁  
仁

公  
公

子  
子

君  
君



おのんごらあ  
 象の終まごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ  
 せんくまごらあ

向異  
 言語頗異同  
 神妙  
 神妙  
 神妙  
 神妙  
 神妙  
 神妙  
 神妙  
 神妙  
 神妙

シ ヲ タ カ ヨ ヲ  
 ナ ニ ガ ン ス エ  
 ナ ニ ガ ン ス エ

性 <small>せい</small>	能 <small>の</small>	鬼 <small>き</small>	陳 <small>ちん</small>	傳 <small>でん</small>	苗 <small>めう</small>	表 <small>ひょう</small>	身 <small>しん</small>
檀 <small>たん</small>	弥 <small>や</small>	江 <small>え</small>	赤 <small>せき</small>	論 <small>ろん</small>	賀 <small>が</small>	花 <small>か</small>	花 <small>か</small>
米 <small>まい</small>	美 <small>み</small>	才 <small>さい</small>	理 <small>り</small>	手 <small>て</small>	火性 <small>かせい</small>	之 <small>の</small>	連 <small>れん</small>
種 <small>しゅ</small>	男 <small>おとこ</small>	夫 <small>ふ</small>	論 <small>ろん</small>	長 <small>ちやう</small>	坂 <small>さか</small>	小 <small>せう</small>	天 <small>てん</small>

オツレモウシナ ゴノンユウ  
 刺つれもらした ごわんより  
 オマハンゼウガ子へヨ  
 刺まはんせろかねよ オトヤクダヨ  
 ワクマロイ ヤロキイタフダ 刺まねくばよ  
 わたやのきいふふの

○夕ツミツ夕詞

コセサガ  
 コカランイキニヨス  
 コタコレコレガキニヨトサレニイワチヤキ

箕 <small>こ</small>	鑫 <small>くわんの</small>	流 <small>る</small>	王 <small>こ</small>	甥 <small>おにい</small>	丸 <small>く</small>	壽 <small>こ</small>	万 <small>ま</small>
倭 <small>こ</small>	金 <small>うね</small>	末 <small>ま</small>	救 <small>こ</small>	而 <small>こ</small>	類 <small>る</small>	我 <small>が</small>	久 <small>く</small>
加 <small>か</small>	苻 <small>に</small>	為 <small>み</small>	者 <small>ら</small>	茂 <small>も</small>	何 <small>なん</small>	甫 <small>ふ</small>	嘉 <small>か</small>
受 <small>う</small>	浦 <small>うら</small>	親 <small>おや</small> 矢破 <small>や</small>	奈 <small>な</small>	尾 <small>お</small>	琴 <small>こと</small>	自 <small>こ</small>	良 <small>ら</small>

枕言葉

雨どろろ 日かひびく  
思ふれぬ 目かせぬ  
風かき 目かき  
ふげく 目かき  
ゆく 目かき  
男 目かき  
業 目かき  
ぢり 目かき  
ぢり 目かき

娘 目かき  
子供 目かき  
下女 目かき  
客 目かき  
女帝 目かき  
女帝 目かき  
けい 目かき  
亦 目かき  
芝居 目かき  
けん 目かき  
津 目かき  
ゆ 目かき  
ゆ 目かき

負うき

矢や

都つ

陳天津  
連茶先

先ん

社しゃ

名な

雅が

伍ご

迺の

俚り

水みづ性せい

瀬せ

勢せい

仇く

深ふか

猿さる

益えき

畴ちゆう

仲ちゆう

那な

世せい

浪なみ

葦あし

備あや

苧お

話わ

射や

可か

園えん

陀だ

惠めぐみ

口	鼻	新	後泉	てうけ	忠發	之味せん	てん	鼻	同
ちく	ちん	ちん	ちん	ちん	ちん	ちん	ちん	ちん	ちん

永	去	吞	稀有 化
糝	鵝	陳地埋地而 部大地 貞元津領	異
亭	薰	名	吳名
湖	庭	終	名

七	十	千	七
上江傳七	豎橫十太	千	七
丹	平	千	七
橫江傳丹	平	千	七

稀有  
 化  
 異  
 吳名  
 終

七  
 千  
 千

七  
 千  
 千

十  
 千  
 千

七  
 千  
 千

子	あんこ
目	め
大	やうい
小	てんい
服	あいのや
汁	あんのい
香	あんのい

不	二年後
仕	二年後
小判	大げん
小	小げん
代	あんのい
面	あんのい
鯉	たらう
た	まごま
ゆ	まごま
病	せむら
湯	あんのい
髪	あんのい

父八十八 よねまの

白白白 こしろ

良良良良 五郎 五郎

六辛六 あいの

山之色 山の下の

田三三 田の字が三つ

林六 小の林

山 皆坂逆右衛門

百白 ひひ

四井 かろり

十五三祝 あいの

廿郎 横木仁十郎

口 田の字の中

五郎素 下妻上五郎

翫翫 須賀と様

山左衛門 長山長左衛門



あやまの布  
おと白粒の後敷

おと紅き物の  
御と朱線

りふりんの  
りふりんの併書

りふりんの  
りふりんの併書

りふりんの  
りふりんの併書

りふりんの  
りふりんの併書

りふりんの  
りふりんの併書

手乃筋早見

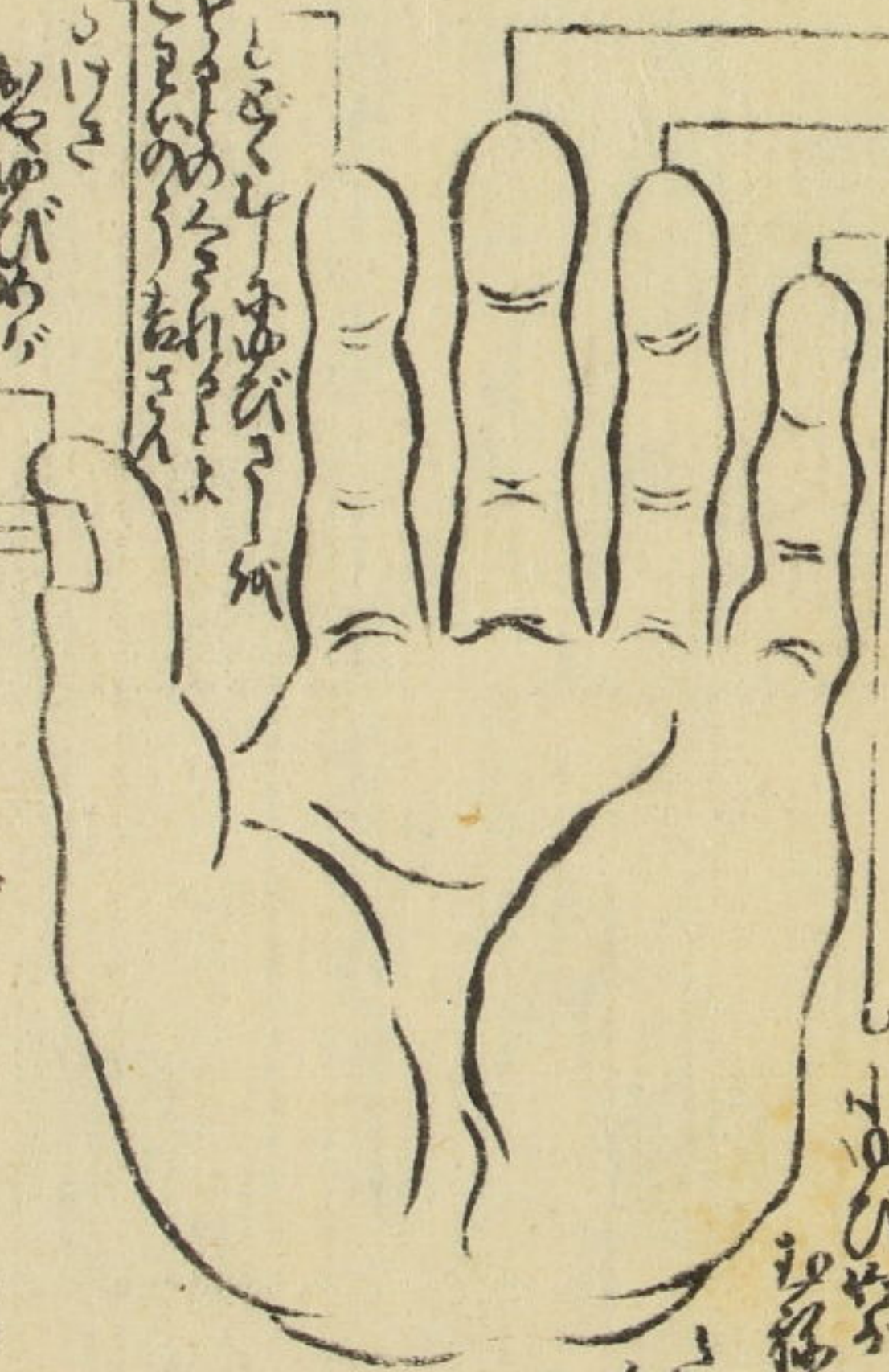
●谷風権之助の早見形

二五ノ中ノ早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見



あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

かんびり  
かんびり

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

あつちの早見  
あつちの早見

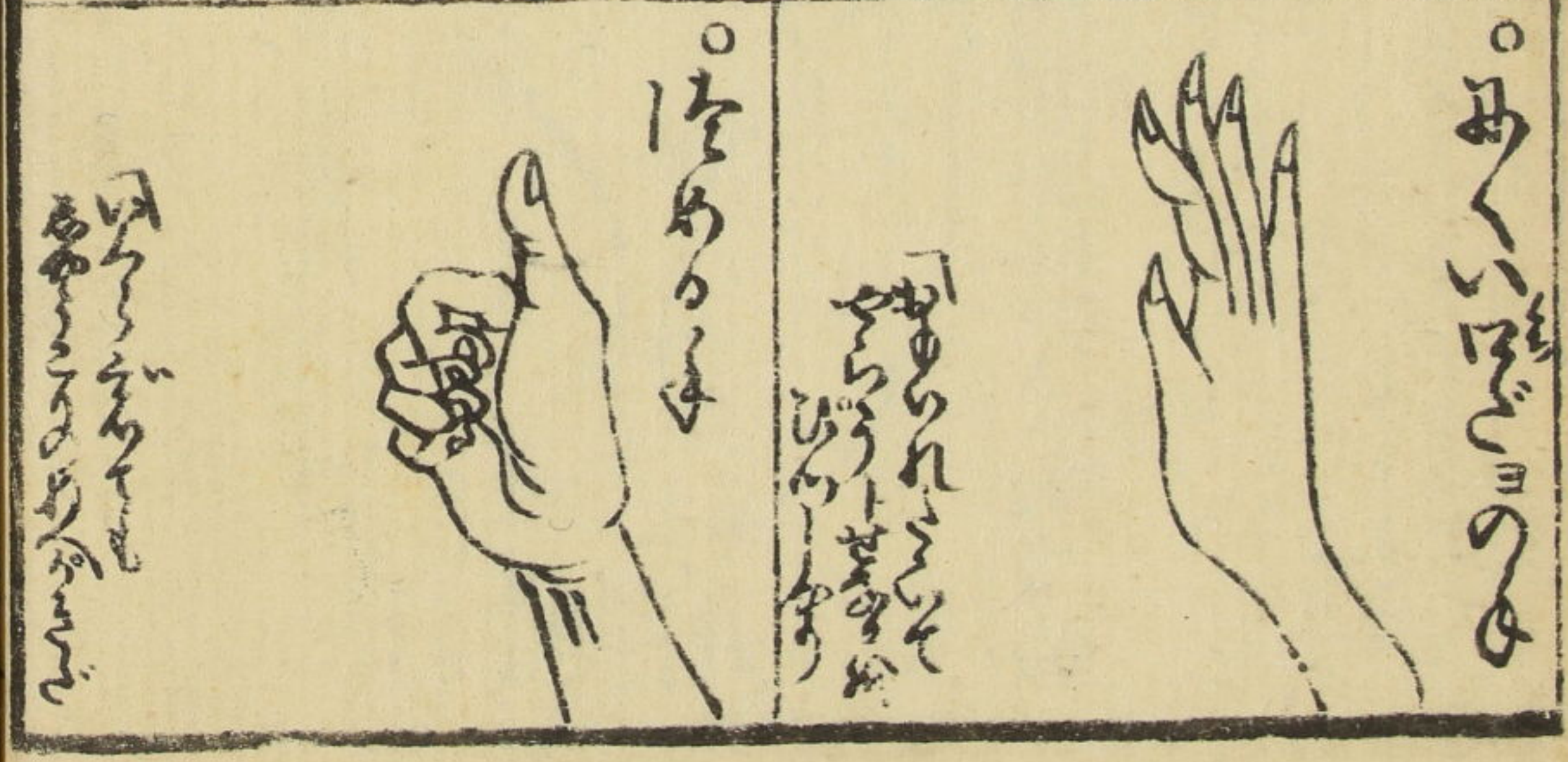
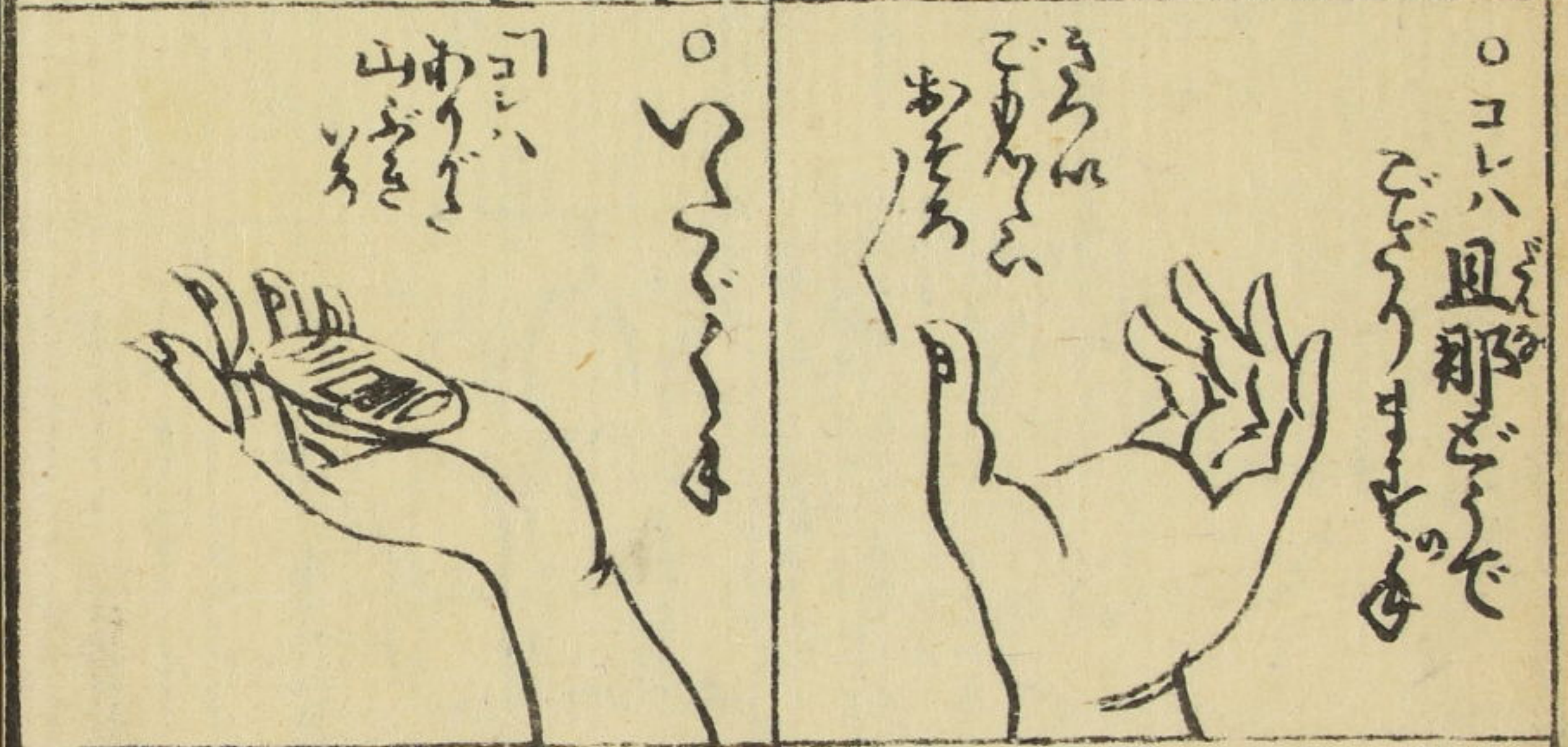
あつちの早見  
あつちの早見

説圖紋を痕をんをふいうと

一 紋九 二 紋八 三 紋七 四 紋六 五 紋五 六 紋四 七 紋三 八 紋二 九 紋一



兼房兼房散小紋散小紋家根板家根板割山椒割山椒の紋の紋ををく  
 ぬ。時時に流流るるかかつつるるののああららふふ小紋小紋松松とといいふふ  
 見見るる吉吉此此紋紋滑滑るる時時に速速く洗洗張張をを入入しし黒黒圓圓紋紋  
 大大わわらら吉吉緋緋をを乃乃乃乃明明後後回回くく爪爪ははくくひひへへしし  
 惣惣嫁嫁夜夜登登辻辻君君をを君君ははいいふふははににアアのの婦婦をを能能辨辨  
 こんこん様様ぬぬああをを十十々々夜夜登登みみ出出くく是是衣衣甚甚紋紋とと  
 小小のの晴晴雲雲でで見見るる大大吉吉此此紋紋白白くく見見ええるる形形ちちららしし  
 嬢嬢欲欲ととああれれてて鼻鼻のの鼻鼻はは亦亦くく被被染染ぬぬとと大大葉葉葉葉小小叶叶ハハ大大吉吉  
 寛寛永永通通變變青青洞洞孔孔方方一一垢垢物物がが一一青青使使汚汚痕痕  
 志志をを大大郎郎とといいふふ名名同同くくああららわわるる古古泉泉形形通通とと  
 一一紋紋とといいふふ一一文文のの形形中中のの所所でで頂頂をを花花枝枝のの一一文文のの泉泉形形  
 滑滑川川でで探探るる武武ままのの一一紋紋へへははじじててままをを大大吉吉のの一一紋紋葉葉大大吉吉



かぶるかぶる形形のの手手

ココ六六且且那那どどろろとといいふふ手手

めめくくハハのの手手

〇どろどろどろどろとといいふふ手手  
 のの手手

〇いいとといいふふ手手  
 山山のの手手

〇ははのの手手  
 山山のの手手

ままがが無無いい手手  
 ままががああるる手手  
 ままががああるる手手

〇ココ六六且且那那どどろろとといいふふ手手  
 ままががああるる手手

〇めめくくハハのの手手  
 ままががああるる手手

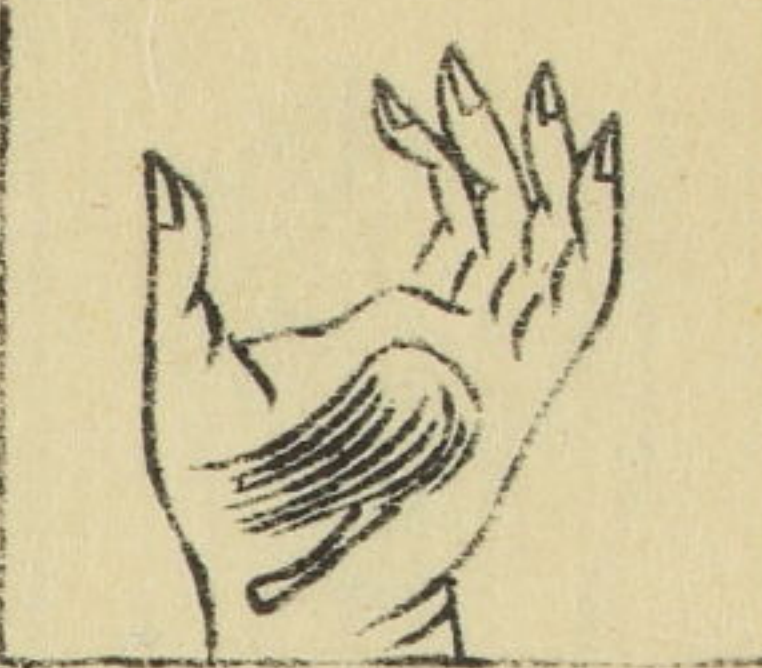




學 紋 法 紋 起 請 紋 二 王 紋 定 紋 註 紋



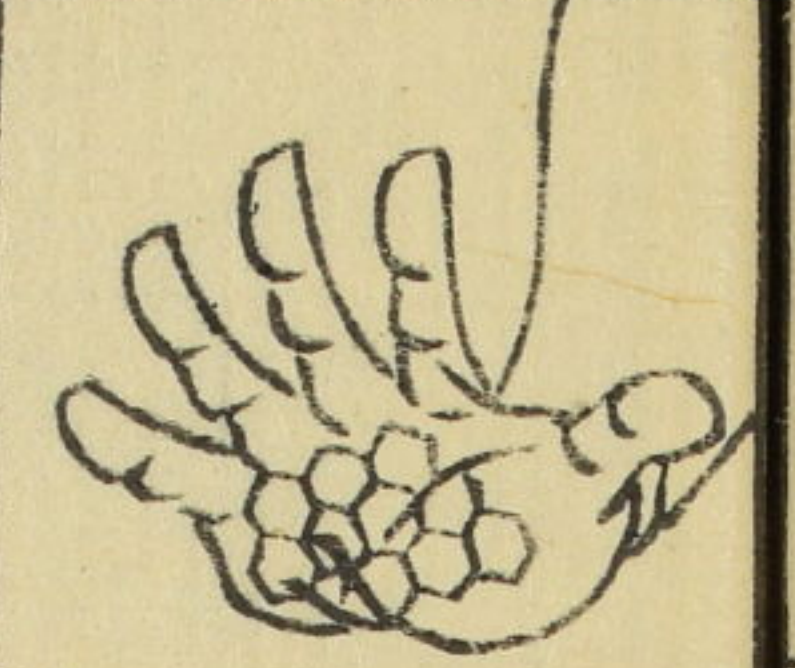
學紋の如く其筋ありて和學漢學その紋乃  
肉小流筋ありて紋乃紋人其筋ありて其筋  
武家も其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて



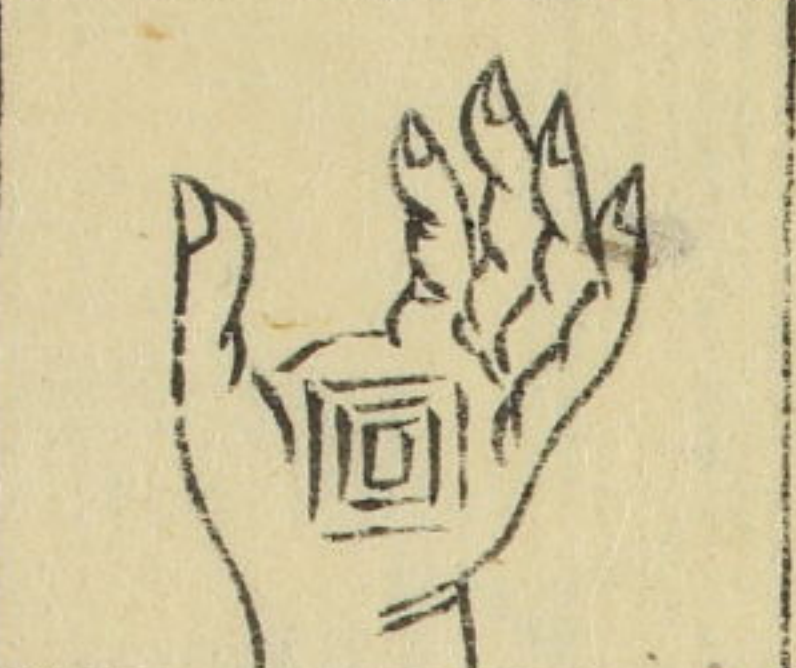
法紋の如く其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて



起請紋の如く其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて



二王紋の如く其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて



定紋の如く其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて



註紋の如く其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて  
其筋ありて其筋ありて其筋ありて其筋ありて

○下司のこまのふまゝごとと尾巻あぐり紅門ぞ紋終

# 人相小鑑

## 福相

人相小鑑  
人同様に人相あり  
乃面の如し  
人を知る事  
亦も面あり  
面を知る事  
金銭儲かると  
位高き時  
俗の地を相  
時中を相  
女房も鬼  
丈夫く相



# 人相圖繪

一、厚二感三  
四古五城六薄  
七、惡八俗  
是八八相  
あり。男女  
此大概と  
去るし。ハ  
幸ののさ  
四相あり。  
先んて八  
相ある。

### 金がある相



### 吝相



### やうまー相

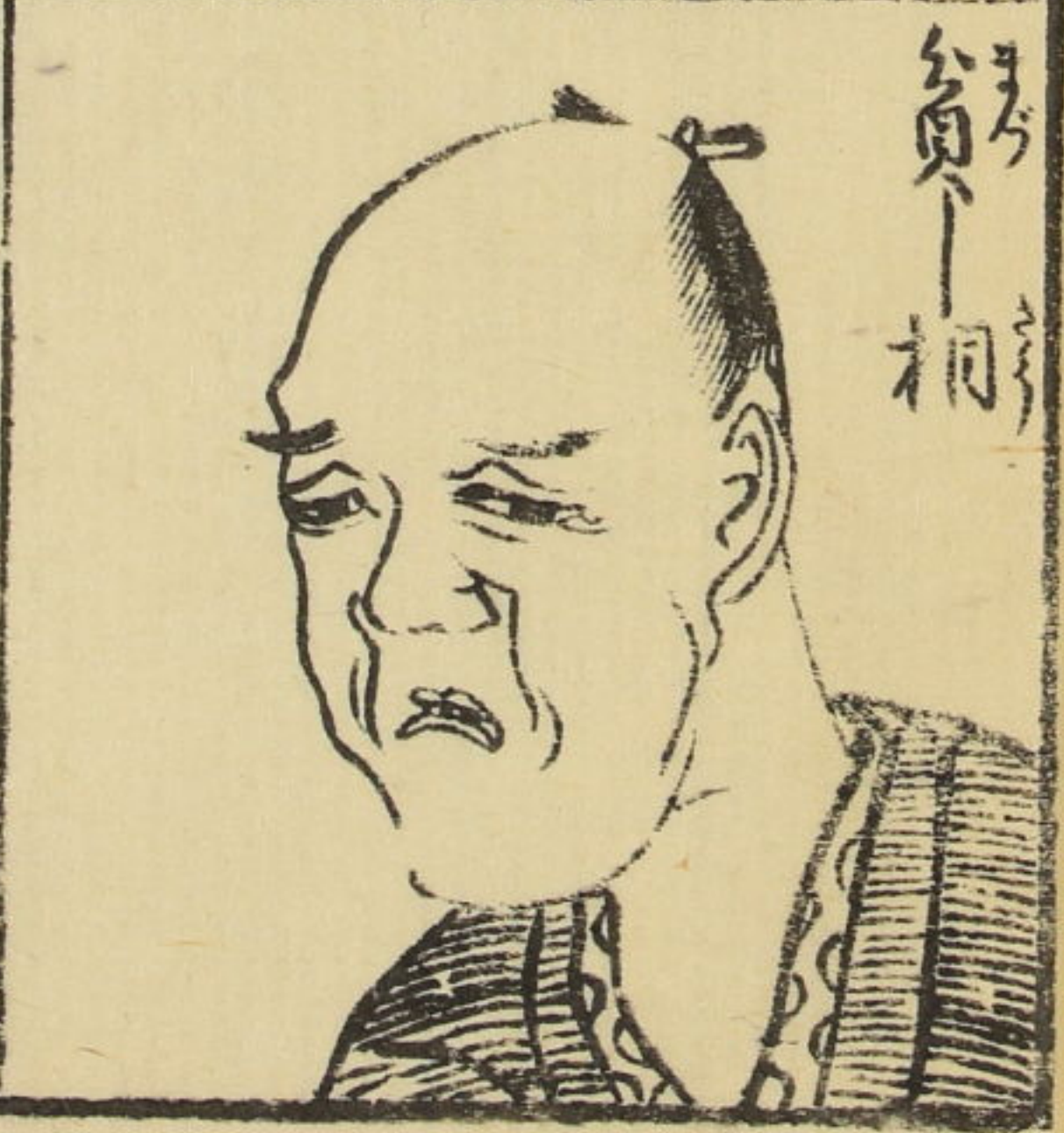


### 腹を立相



と世み我孫八相  
 とびひのえあふ  
 出せる家又四相  
 と増考く十二  
 相のわらふも  
 四相なるゆゑ  
 中のいさや  
 圖解を抹香  
 ありて中か面と  
 志ふ相へ移り  
 ざるは後相。ふ  
 かくさるは結  
 相。しやくさるは

さう中へ後と  
 おのゝ世を  
 のどとくびりく  
 まるひまの相  
 けりや木わら  
 ともつと高  
 とさるかの大相  
 初相は仔細  
 下合ふ面はさ  
 碎れ。天善  
 うがんとくらの  
 虚子相むせふ  
 ちややとさる  
 ね。ちやくさる



面部乃圖註解

人間万差多悪邪正眼鼻

有口有舌之目其諸の足所

之鼻不諸乃句次觀之紫色

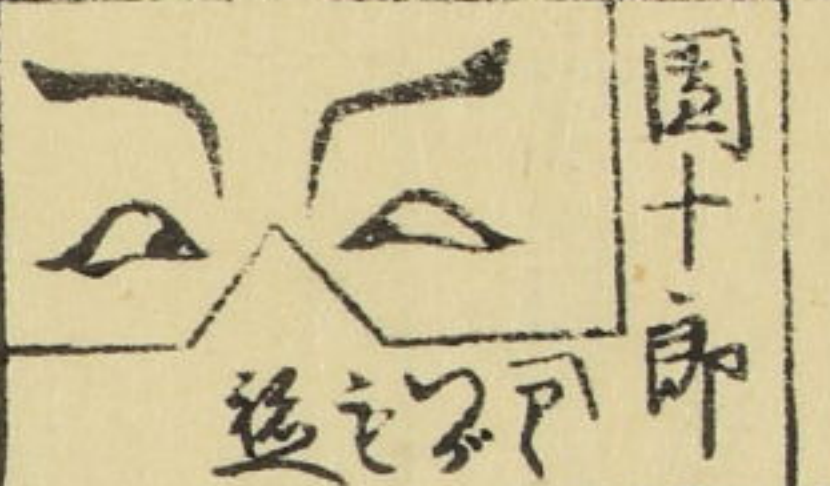
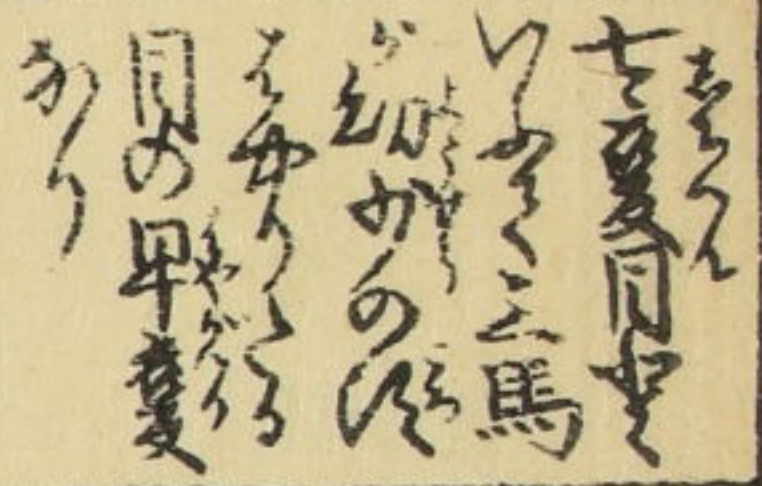
く乃奉成まらぬ有示諸の世

公之く公小と我く乃不足公成

以多諸乃味と含く公のり

くの公と成あくぶるささバ

うらみあるハおとし  
 りお。庭のり  
 りくくまじ  
 ゑもひお。初  
 ひくくまじ  
 室の知を惚くれ  
 と相。女のま  
 ひくくまじ  
 まく。面づの  
 相。女房小天害  
 のわくぬまの  
 のびく相。陰景の  
 住長を野相。や  
 ぶるくく色目



好相。女房小天害  
 のわくぬまの  
 のびく相。陰景の  
 住長を野相。や  
 ぶるくく色目



身と眼く鼻入付ら口切者乃  
 目口のとも舌々災乃根ある  
 正成あまげ目く鼻くぬる  
 有示同乃利はくはら禍  
 乃のあまめとあまげ呼實小  
 目鼻があまめ哉。色其深  
 赤小筋。目鼻の隙と世の  
 列の協まを以の裂。妖魔ハい  
 志。富妻天眼掬中あへ





まろくちあれい果  
まろくちあれい果

面の圖

外面如菩薩



内心如夜叉

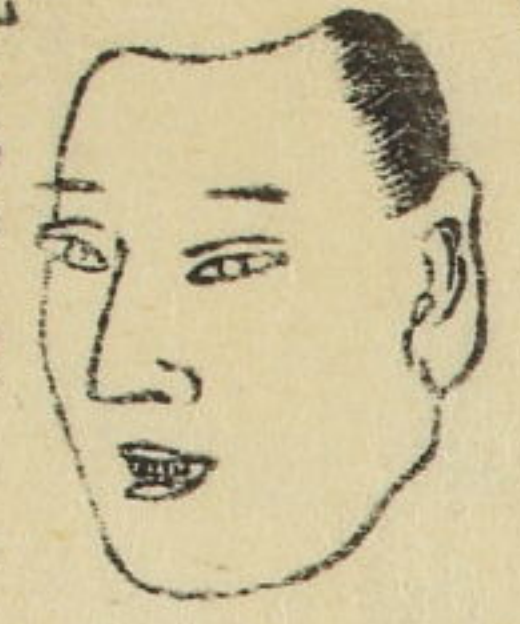


大世がむいふつて  
ひぢをてまゝに  
ぼつちまゝにまゝに  
くちまゝにまゝに

不工面



能工面



元日のあつち  
いんちあつち  
いんちあつち  
いんちあつち  
いんちあつち  
いんちあつち

いんちあつちのあつち  
いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

○是よりまゝ酒宴看途

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

五

山

姓

大

同

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち

いんちあつちのあつち



月乃異名略

正月 門松  
 二月 初午  
 三月 離生  
 四月 誕生  
 五月 懺で  
 六月 天王  
 七月 七夕  
 八月 月見  
 九月 菊見  
 十月 夷講  
 霜月 願見  
 極月 餅春

游戲堂式亭三馬著



維時文化第三稔丙寅春王正月  
 明治十六年十月改題

出板人 青雲堂 英屋小堀房  
 神田末廣町

官許 登龍丸

食物一切 二日分 金五錢  
 さし合なき 七日分 金拾七錢

此登龍丸ハ我家の秘法カシク諸君の知る安。多ク人せも、  
 里守りぬ。幸通り妙薬あり譬ハ十年廿年たれんや  
 こそ込上けむぬいぬ。里守りぬこそ胸にみ敬初も病も  
 事なりつゝもからぬハ幸粒おもさハ幸回り数年未  
 難症ハ三回も御用被成治る事ハ神薬ハ能書し記し

官許 龍聖湯

婦人 血の道の妙薬 定價 金四錢

此龍聖湯ハ産前さし後ちの道此大妙ノ薬ナリ若しあり  
 血の道薬数多ありとも他ノ種類あり奇薬ナリ  
 用ひて切験大なるを志す一委おハ能書し志す  
 本舗製所 神田末廣町青雲堂 英屋小堀文藏製

